

一人ひとりを大切にする具体的な保育

8

うた・音の環境と 幼児の遊びの環境

ユリア
愛知県碧南市・へきなん保育園園長

1 まず、大人がわらべうたを覚える

前回は、わらべうたのことを少し述べました。

その中で、「乳児に向けて歌う時は、みんなに向けて歌うのではなく、目の前の子に向けて歌う」と述べましたが、このことがどういう意味を持つのでしょうか。

現在の脳科学によると、大人が一人ひとりの子（目の前のその子）に向けて歌っている状況では、隣にいる子は、その状況を脳内のミラーニューロンの働きにより自分に移し替えて体験する、といったことが生じるそうです。つまり、子どもは、大勢の

みんなのために歌われている状況より、一人に向けて歌われている状況のほうがより親密なこととして感じるらしいのです。

こうしたことから、「目の前のあなたに向けて、語りかけたり、歌ったりすること」は、より親密な信頼関係を築いていくうえで有益であることがわかります。そして、できることならば、きれいな声で歌ってあげられたらいいと思います。

以前、スウェーデン、フィンランドに出かけた時、子どもたちがうたを歌ってくれ、聞く機会があったのですが、とてもきれいな歌声に感動しました。みんなでそろって大きな声でというのではなく、日常の中で、小さなグループで歌ってくれた時も美しい声で歌っていました。日常的に美しい声で歌っていることが現れているのだと思います。

自園でも、音楽の基礎になることや、また言葉の発達の基礎となるようなことが、

楽しみながら自然に、子どもたちに身につけていったらと願っています。

また、わらべうたとともに、日本で昔から歌われているうたにも、もちろん触れてほしいと思っています。いろいろな思いのある中であれこれ考えて、保育士と相談しつつ、バランスをとりながら日々の保育実践につなげているところです。

前回、毎日の職員の朝礼でわらべうたを3曲歌っていると述べました。

どうしてこんなことを考えたのかといいますと、ハンガリーでの研修の際、ブダペスト大学の幼児教育学科で、音楽の講義を見学する機会がありました。そこで大きな衝撃を受けました。前期試験でわらべうた40曲、民謡20曲が課題となると聞きませんでした。ということは、2年間で240曲も学んでいるということで、日本の保育士養成校での学びとのあまりの違いに愕然としました。

そこで、日々の保育現場で何ができるのだろうかと考えた時、「毎日少しずつ歌うこと」が浮かんできました。1日5曲、その5曲を1週間歌うとすると、月20曲になり、それを12か月続けると、240曲になるではありませんか。

シフト制勤務のため、毎日の朝礼には同じ人たちが出席できないので、それをぐる

ぐる続けました。そうしているうちに職員全体に浸透していつているようです。

朝礼に長く時間をとることも難しいので、今は毎日3曲を歌っています。音（旋律）が必要であれば、リコーダーを使っています。

以前は、乳児の部屋にも電子ピアノなどを置いていましたが、今はもっぱらアカペラで歌うので、遊びのスペースを確保するために片づけてしまいました。

幼児の部屋には、ピアノもしくは電子ピアノがあります。子どもにとって無理のな



●上・おままごとで遊ぶ（3・4歳児）
下・玩具の収納（3・4歳児）

い音域があり、無理をして大きな声を出して歌ったりすると声帯を痛めることがあるといったことを聞きました。そこで、そうしたことも考え合わせながら、ピアノの伴奏に合わせてうたも歌っています。

2 幼児が夢中になって遊べる環境

さて次に、幼児の遊びの環境について少し述べてみたいと思います。

やはり一人ひとりを具体的に大切にする保育を実践するためには、幼児においても、そこにいる子どもたち全員が夢中になって

遊べる環境を整えることが必須となります。私の園が完璧というわけではありませんが、参考までに3・4歳児混合クラス20人の部屋にどんなものが整備されているかあげてみます。

◎役割遊び

キッチン スプーン 鍋 皿 カップ
お玉 泡立て器 包丁 衝立 テーブル等
23種類ぐらい

おんぶ紐 人形（いろいろな人種の子ども、動物） 人形の布団 人形の着替え
エプロン ベビーカー ゆりかご シフォン布 衣装（10種類以上） 帽子 毛布
お医者さんごっこ ドールハウス

◎構成遊び

積み木（大、小、4種類） リアルな動物 木の動物 小さな人形 車（木、プラスチック） 汽車 線路 Bブロック レゴブロック（大） ペタペタブロック
大型積み木

◎描画工作

色鉛筆 クーピーペンシル（プラスチック色鉛筆） 型描き 広告紙 白い紙 折り紙 折り紙工場（折り紙を作る道具）
塗り絵 イーゼル カラーマグネット

◎机上

レゴブロック（小） パズル（立体、紙）



●上・ゲームなどで遊ぶ(5歳児)
下・ソファーでくつろぐ(3・4歳児)

くるようです。

3 住空間としての環境① …くつろげる雰囲気と場所

幼児の遊びの環境について述べましたが、もう一つ、住空間としての環境について述べます。

乳児の保育について述べた際にも少し触れたと思いますが、子どもたちは毎日、園という環境で生活をしています。そして、たいていの園では家庭的であることを大切にしているのではないのでしょうか。

私の園では、その具体的な環境の一つとして、各部屋にソファを置き、もう一か所、1人、2人と少ない人数でくつろげるスペースを準備しています。

子どもたちが一日長い時間を過ごす部屋にほっとくつろげる雰囲気と場所を整えることは、不可欠だと思います。なにしろ、大人の労働時間より長い時間を過ごす子どもも多くいるのですから。ましてや、あんな小さな身体なのです。疲れたら休める場所ほぜひ整えてほしいと思います。

4 住空間としての環境② …壁面構成はしない

そのことともう一つ、私の園では30年前から壁面構成はしていません。

マグネットパズル 粘土
トランプ かるた(年長児は、すごろく、オセロ、ボードゲーム、バランスゲームなど)

◎楽器

グロッケン シロフォン マリンバ
ウインドチャイム

こうしたものはすべて、子どもが自由に取り出して遊べるように準備しています。子どもの様子を見る限り、どの時間、どのクラスでも退屈することなく、それぞれ

の遊びを展開しています。そして、空間、道具が準備され、遊びが守られている状態があると、保育士に一人ひとりと具体的にわかる余裕が生まれてきます。

ここで、一つ気をつけなければいけないことがあります。子どもたちは放っておいても遊んでくれるので、ついつい目を離してしまいがちになるということです。

やはり、「よく見ておくこと」がとても大事です。そして子どもたちの様子から、次の保育のヒントが見つかったり、もちろん、遊びを通して子どもの発達の様子が見えて

- ①テーブルフラワー
- ② テーブルフラワーのある場所では指編みをする (5歳児)



家庭では紙で作ったものなど、あまり飾らないですよ。園で壁面を飾ることの意味としては、季節を感じるといったことでしょうか。

そう考えると、何も工作したものを飾らなくても、季節を感じられるしつらえを、自然のものを使ってアレンジしたらいいかと思えます。誰が見ても「わあ、素敵」と思えるようなお部屋になっていたらいいなと思います。

そのためには、以前から、隅を光らす、見えないうところを綺麗にする、色の調和を



考える、むき出しのダンボール箱などは置かない、などといったことを日常的にしてきました。

それから、壁面構成をしないということでは、もう一つプラスの点があります。それは、作業に時間をとられないといったことです。

こうした工夫の先に、職員の時間の使い方が変わってくることもあります。自園の場合は、基本的に残業と持ち帰りの仕事はありません。保育の中での連携とともに他の仕事においても連携をよくし、働きやす



●大型積み木で遊ぶ (3・4歳児)

い環境ができてくるようです。
一人ひとりの子どもを大切にすること、一人ひとりの職員を大切にすることは、同じことのようにです。